

## 「わたしの霊を注ぐ」

2016年02月17日

**使徒言行録 2章 14節～21節。**すると、ペトロは十一人と共に立って、声を張り上げ、話し始めた。「ユダヤの方々、またエルサレムに住むすべての人たち、知っていただきたいことがあります。わたしの言葉に耳を傾けてください。今は朝の九時ですから、この人たちは、あなたがたが考えているように、酒に酔っているのではありません。そうではなく、これこそ預言者ヨエルを通して言われていたことなのです。

『神は言われる。終わりの時に、／わたしの霊をすべての人に注ぐ。すると、あなたたちの息子と娘は預言し、／若者は幻を見、老人は夢を見る。わたしの僕やはしたためにも、／そのときには、わたしの霊を注ぐ。すると、彼らは預言する。上では、天に不思議な業を、／下では、地に徴を示そう。血と火と立ちこめる煙が、それだ。主の偉大な輝かしい日が来る前に、／太陽は暗くなり、／月は血のように赤くなる。主の名を呼び求める者は皆、救われる。』

使徒たちは「風」と「炎」の徴によって「神顕現」を体験し、聖霊を注がれた。聖霊は彼らに言葉を与え「神の偉大な業（福音）」を語らせた。12使徒たちは立ち上がり、ペトロが代表して、声を張り上げ説教し始めた。まず「知っていただきたいことがあります。わたしの言葉に耳を傾けてください」と呼びかけている。そして、酒に酔っているのだという批判に対し、朝の9時であるから、酒に酔っているのではないと語っている。「そうではなく、これこそ預言者ヨエルを通して言われていたことなのです」と、ヨエルの預言が成就した出来事であると話し始めている。

ヨエルの預言は、ヨエル書3章1節から5節aまでの御言葉である。「その後／わたしはすべての人にわが霊を注ぐ。あなたたちの息子や娘は預言し／老人は夢を見、若者は幻を見る。その日、わたしは／奴隷となっている男女にもわが霊を注ぐ。天と地に、しるしを示す。それは、血と火と煙の柱である。主の日、大いなる恐るべき日が来る前に／太陽は闇に、月は血に変わる。しかし、主の御名を呼ぶ者は皆、救われる。」

ヨエルについては、人物も時代も分かっていない。本文から、紀元5世紀頃だと推測されている。この時代は、ペルシャ帝国が衰退し始め、新しい時代の到来が予感されていた。ヨエルはペルシャ帝国の没落を予測し、隠された「黙示文学表現」を用いて、新時代の到来を待望する言葉を語っている。

ペトロは、ヨエルの預言から聖霊降臨による新しい時代が来ていることを語っているのである。ペトロは、ヨエルの「その後」を「終わりの時に」と言い換えている。聖霊降臨で始まる「教会の時」が来たという意味である。神の霊が注がれた教会の時の到来によって、あなた方の息子と娘は預言する。預言するとは神の恵みを語ることである。若者は幻を見、老人は夢を見る。人は幻、夢を見る時、生きる者となる。全ての人が明日への明るい希望を持つ。僕やはしたためにも、霊が注がれ、神の恵みを喜ぶ。天と地に不思議な徴が示され、血と火の立ち込める煙の柱が立つ。ヨエルは「主の日、大いなる恐るべき日が来る前に」と言っているが、ペトロは「主の偉大な日が来る前に」と言い換えている。その偉大な日が来る前に、太陽は暗くなり、月は血のように赤くなる天変地異が起こる。しかし、主の名を呼び求める者は皆、救われる。聖霊を受け、イエスを主キリストとして信じる教会の時、救いの時が来た。ペトロは全てに聖霊が注がれている喜びを語っている。